



# 市史へんさん

第 260 号

令和 2 年 11 月 1 日

小松市史編纂担当

へんさんだより

秋も深まり、紅葉の美しい頃となりました。今年は、コロナ禍の影響で自粛続きでしたが、Go Around こまつに始まり、最近のGo To トラベルやGo To イートなどのキャンペーンもあって、少しずつ外に出る機会が増えてきました。当市も今年が市制 80 周年に当たり、その記念事業が数多く展開されています。くしくも今年、前田利常が小松城に入城して 380 年の節目の年でもあり、博物館では、現在特別展が開催されています。この企画にコラボして、市史講座も、近世郷土史では識者の見瀬和雄金沢学院大学名誉教授をお招きして、「一番大名 前田利常の軌跡」と題して講演会を開催します。人数にまだ余裕がありますので、ぜひご聴講ください。

## 市制 80 周年記念『写真でふりかえる小松市～小松市 80 年のあゆみ～』

4 月から図書館西口で紹介してきました『写真でふりかえる小松市』は 11 月より展示替えし、12 月 6 日に開催予定の市制 80 周年記念式典にちなみ、節目ごとに催された様々な記念式典を振り返り、併せて当時の町の有り様を写真で紹介します。この紙面では、市制施行から昭和期の記念行事の様子を取り上げました。



昭和 16 年(1941)4 月 3 日 祝賀式典

### 【昭和 15 年 12 月 1 日 小松市制施行】

昭和 8 年(1933)に、当時の内務省が、小松町を都市計画区域に決定したことから市制実現に向けての第一歩となった。同 9 年から白江村との合併を試みたが、県との調整で中断。同 13 年には、牧、板津、苗代の 3 村を加え、1 町 4 か村で再出発したが、合併による利害が解決せず、実現への気運が高まらなかった。同 14 年に七尾市が誕生したことで、町民の市制への要望が高まり、安宅町、御幸村、栗津村を加えた 2 町 6 か村を市域とする合併案で実現を目指した。折しも昭和 15 年が皇紀 2600 年(神武天皇即位を元年とする)という日本の節目の佳き日に当たり、この年の施行に向け、合併の必要性を強く訴えた。こうして小松市誕生までに 7 年。当市は全国 176 番目の「市」となった。

### 【昭和 35 年 6 月 3 日 市制 20 周年記念 小松まつり】

市制施行以来 20 年間に行われた編入合併により大小松市の基盤が築かれ、更に未来への発展を願って、記念式典が挙行された。

正午からは、邦楽舞踊大会等が始まり、市内では「小松まつり」が催され、小・中学生の旗行列などが市中を練り歩き、市民ともどもにこの日を祝った。

この年は、元日銀総裁新木栄吉氏の顕彰碑建立や県内初の女子高「小松市立高等学校」(「女子」が入るのは同 38 年から)が開学した。



昭和 35 年(1960) 賑やかな小松まつり



昭和 55 年(1980) 姉妹都市を招いての式典

### 【昭和 55 年 5 月 14 日 市制 40 周年記念式典 姉妹都市の市長を招待】

姉妹都市であるブラジルのスザノ市、ベルギーのビルボード市から市長夫妻を招待し、関係者 1,000 余名が集まる中、式典が催された。またこの記念の日に、市の木を「松」、市の花を「梅」とすることが発表された。

この年に、宮本三郎ふるさと館の前身「宮本三郎記念美術館」が開館。大倉岳高原スキー場が市営によりオープンしたのもこの年である。

# 『新修 小松市史 資料編 17 考古』第1章のみどころ



**【今江潟コアにみられる貝殻】**  
約 9,400 年前の主に浅海底に生息するフネガイ科の二枚貝。この貝殻の発見で、この時期の今江潟が縄文海進直後の塩分の高い環境だったことがわかった。

地形は、私たちが生活を営む基盤であり、その特徴、形成史を知るとは、小松市の考古遺跡の立地を理解する上でとても重要です。今回の『考古編』では、これまでの自治体史で取り上げなかった地形形成から遺跡の立地を考察する章を設けました。私たちの住む「能美低地」がどのように形成されたか、集落形成と密接な関係のある「加賀三湖」はいつ頃できたのかが明らかにされています。

その一部を紹介します。小松市の地形は、山地、丘陵地、台地、低地、扇状地から成り立っています。かつて、縄文時代早期～前期頃、縄文海進(気候の温暖化により海面が現在より 2～3m 上昇した現象)の影響で、そのピーク頃(約 7300 年前)には能美低地は東部台地の縁まで海域が入り込み、西側へ深くなるような浅海底でした。その後、急速に砂の堆積が進んだことで形成された沿岸州(海岸線にほぼ平行な砂の細長い堆積地形)により、日本海から切り離された水域は、河川から運ばれた堆積物が積み重なることで平野となり、その埋め残しの水域が「加賀三湖」となります。

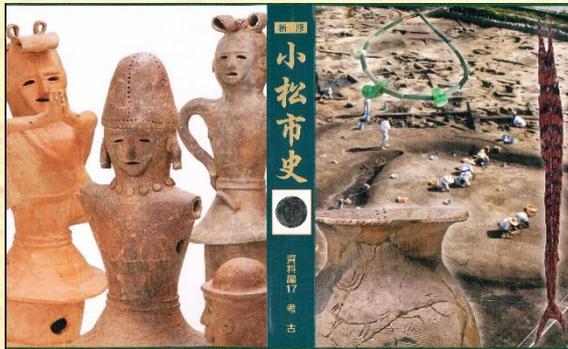
その深さは海岸部付近では約 21m、今江潟付近では約 17m、木場潟周辺では約 6～7m と東側に向かって、順次浅くなっていました。沿岸洲はどんどん発達し、現在の小松市内の低地の形成へ進んでいきます。

1章では、ボーリングコア試料を中心に、コアに挟まれる堆積物(貝殻・珪藻等)からも潟形成の分析を掲載しています。ぜひお読みください。

## 『考古編』

特別価格 **3,900 円**  
(12 月末日まで)

販売所  
図書館 2 階  
市史編纂担当  
うつのみや  
小松城南店  
明文堂書店  
小松ツリーズ



## <10 月の活動状況>

- ・10月 6日(火) 前田利常書状調査(市博物館)
- ・10月 8・10日 新聞記事(昭和 50・60 年代)調査
- ・10月 29日(木) 編さん・編集合同委員会
- ・10月 29日(木) 石造物調査(安宅小学校・勝楽寺)



## <11 月の活動予定>

- ・11月 7日(土) 近現代部会
- ・11月 15日(日) 第 91 回 市史講座

## <11 月のカレンダー> 開室時間 10:00～12:30/13:00～17:00 (火～土)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	12/1	12/2	12/3	12/4	12/5

\*    は閉室しています。開室時間は、図書館の開館時間に合わせてあります。上記以外の時間で、御用のある方は、9時から17時まで受け付けますので、下記にご連絡ください。

小松市史編纂担当 (小松市立図書館 2 階)

- ・住所 〒923-0903 小松市丸の内公園町 19 芦城公園内
- ・TEL 0761(24)5315 ・FAX 0761(22)9763
- ・E-mail [hensansitu@city.komatsu.lg.jp](mailto:hensansitu@city.komatsu.lg.jp)
- ・URL <https://www.city.komatsu.lg.jp/soshiki/toshokan/shishihensan/index.html>